

一 教学入門 ② 十界論と一生成仏

※次の文章は「十界」についての説明です。それぞれ何界かを書きなさい。

- (声聞界) 仏の教えを聞いて部分的な悟りを得た境涯
- (縁覚界) 様々な事象を縁として自らの力で部分的な悟りを得た境涯
- (地獄界) 苦しみに縛られ、生きていること自体が苦しい、何を見ても不幸に感じる最低の境涯
- (修羅界) 常に他者に勝ろうとする「勝他の念」を強く持つ境涯
- (天 界) 欲望が満たされ、喜びに浸っている境涯
- (餓鬼界) 際限のない欲望にふりまわされ、心が自由にならずに苦しむ「貪り」の境涯
- (人 界) 因果の道理を知り、物事の善悪を判断する理性の力が働いている境涯
- (畜生界) 因果の道理がわからず、善悪の判断に迷い、目先の利害に従って行動してしまう境涯
- (菩薩界) 仏界という最高の境涯を求めていく「求道」と自らが得た仏法の功德を他者に分かち与えていく「利他」の実践の境涯・「慈悲」を根本にした境涯
- (仏 界) 自身の生命の根源が妙法であると悟ることによって開かれる
広大で福德豊かな境涯

※次の言葉に当てはまる十界の各界の名称を書きなさい。

- 六道 (地獄界 ・ 餓鬼界 ・ 畜生界 ・ 修羅界 ・ 人 界 ・ 天 界)
- 三悪道 (地獄界 ・ 餓鬼界 ・ 畜生界)
- 四悪趣 (地獄界 ・ 餓鬼界 ・ 畜生界 ・ 修羅界)
- 二乗 (声聞界 ・ 縁覚界)
- 四聖 (声聞界 ・ 縁覚界 ・ 菩薩界 ・ 仏 界)

※十界の各界を述べた御書の一節を埋めなさい。

- 瞋(いか)るは (地獄)
- 貪(むさぼ)るは (餓鬼)
- 癡(おろか)は (畜生)
- 諂曲(てんまぐ)なるは (修羅)
- 平(たいら)かなるは (人)
- 喜ぶは (天)
- 無顧の悪人も猶妻子を慈愛す (菩薩界) の一分なり
- 法華経を信ずる心強きを名づけて (仏 界) と為す

※十界互具について、空欄を埋めて文章を完成しなさい。

十界互具とは、十界の生命それぞれに (十界) が具わっているということとです。今現れている生命が次の瞬間に縁によって他の生命境界を現わし得ることが明らかになりました。御書に「末代の凡夫出生して法華経を信ずるは (人 界) に (仏 界) を具足する故なり」とあるように、十界互具の法理によって、今どのような境涯にあっても (仏) 界の境涯に変革できることが示されました。

※生命論の大意を踏まえて次の文章を完成させなさい。

戸田先生は幸福には2種類あると言われており、ひとつは物質的に満足したり欲望が満たされることで得られる幸福で、もう一つはどこにいても何があっても生きていることが楽しい境涯のことです。

前者を（ 相対的幸福 ） 、後者を（ 絶対的幸福 ） といいます。

十界論で言うと、前者は（ 天 界 ） にあたり、後者は（ 仏 界 ） にあたります。

※次の語群から適切な言葉を選んで文章を完成させなさい。

同じ言葉が入る個所もあります。

六道と（ 四 聖 ） との決定的な違いは、（ 環 境 ） に左右されるか、されないかという点です。この六道の境涯を超えて（ 環 境 ） に支配されない主体的な

（ 幸福境涯 ） を築くのが（ 仏道修行 ） の目的です。

成仏とは、私たち全ての人の生命の奥底に備わっている（ 仏 界 ） の生命を涌現させることをいいます。大聖人は（ 御本尊 ） を信受して純真に（ 自行化他 ） の実践に励むならばどのような人でも一生のうちには仏の境涯を得ると説きました。

これを（ 一生成仏 ） と言います。

大聖人は成仏の意義について、「成（じょう）は（開く）義なり」と仰せになり、成仏は自身の生命に備わる（ 仏 界 ） の生命を開くことであると言われています。

四聖	仏道修行	環境	地獄界	仏界	六道	成仏	御本尊
開く	変化する	創る	一生成仏	幸福境涯	自行化他		